

令和6年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月6日

校訓 「吾あり 人あり 学びあり」

学校教育目標

- ～強い意志をもち、豊かな未来を創造する生徒～ …（統括目標）
- 思いやりをもち、人との結び付きを大切にする生徒 …（徳育目標）
- 自ら学び、確かな知恵を身に付ける生徒 …（知育目標）
- 忍耐強く、たくましい心身を鍛える生徒 …（体育目標）

【学校経営の方針】

- 1 「自ら考え、判断し、行動することができる力」の育成…「主体性」を伸ばす
社会が変化して予測困難な時代になっても、生徒一人一人が思い描く幸せを実現してほしい。そのために、主体的に取り組む態度（「主体性」）を伸ばす。各教科における「課題探究的な学習」、自己理解と自己実現を目指す「キャリア教育」、さっぽろっ子自治的活動を推進する生徒会活動や学級活動に取り組む。
- 2 「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり…「判断の基準」の観点から
生徒の立場に立ち、生徒の「安全・安心」と「学び・成長の保証」を判断の拠り所とし、「自分が大切にされている」と生徒が思える学校を目指す。そのために、互いのよさや可能性を発揮できる学習活動づくり、互いのよさや可能性を認め合える人間関係づくり、安心して過ごすことができる環境づくりに取り組む。
- 3 チームとしての学校 ～チーム中央～ …「指導体制・支援体制」の観点から
教職員、スクールカウンセラー、学校司書、相談支援パートナー、学びのサポーター、部活動指導員等の校内のスタッフを基盤に、地域人材（講演会講師、部活動外部指導者、関係機関等）や保護者も含めた「チーム中央」の協働体制で「生きる力・生き抜く力」を育むとともに持続可能かつ教育の質の向上を図る。

【学校経営の重点】

- 1 思いやりのある豊かな心の育成（徳育）
- 2 生き抜く力を育む教育課程の編成と実施、及び授業改善の推進（知育）
- 3 健やかでたくましい体の育成（体育）
- 4 「共に心豊かに学ぶ生徒」を育てる特別支援教育の推進
- 5 効果的かつ効率的な学校運営の推進
- 6 保護者・地域から信頼される学校の創造

- | | |
|---------|--|
| 《研究主題》 | 「関わりを通して、自ら未来を切り拓く生徒の育成」 |
| 《研究副主題》 | 「生徒が主体となり、学びを深める授業の創造」 |
| 《研究の視点》 | ①課題探究グループ ②個別最適な指導グループ ③ICT活用グループ
④授業内容の工夫改善グループ ⑤「主体的に学習に取り組む態度」追究グループ |

○評価結果について

- | | | | | |
|-----------|-----------|------------|-----------|------------|
| 自己評価結果 | (A: 十分である | B: 概ね十分である | C: 不十分である | D: 改善を要する) |
| 学校関係者評価結果 | (A: 十分に適切 | B: ほぼ適切 | C: やや不適切 | D: 不適切) |

学校教育の重点

自 己 評 価 結 果		学校関係者評価	
評 価 項 目	達成 状況	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ

学ぶ力の育成 「『生き抜く力』を育む教育課程の具現化」

○教育課程の適切な実施と評価・改善の推進 ・新学習指導要領の全面実施の推進 ・生徒の実態に即した評価・評定の研究と改善	・道徳科の指導法の充実 ・進路探究学習（キャリア教育）	A	A	A
○授業改善、指導力の向上に資する研究・研修の推進 ・一人一人が自己有用感をもち、互いに高め合う集団の育成 ・自己研鑽、教師間の実践の交流と研修活動の推進	・言語活動の場を広げ、質を高める授業の創造	A		
改善の方策) ・多様な生徒への適切な対応（授業改善と適宜適切な評価）。 ・各教科の授業を通して生徒の自己肯定感・自己有用感を高めるための適切なフィードバック。 ・新しい教科書に対応した各教科の年間指導計画と評価のアップデート。				

豊かな心の育成 「心通う落ち着いた教育環境の具現化」

○温かさや厳しさ、相互理解と信頼に基づく生徒指導の実践 ・明るい挨拶、爽やかな挨拶の実践 ・生徒が自己有用感をもち、互いに認め合い高め合う集団の育成 ・特別な支援を要する生徒、不登校生徒への組織的な対応	A	A	A
○学びの場としての教育環境の整備充実 ・安全で、美しい清潔な校舎・施設の維持管理、清掃活動の充実 ・自分の生活する環境をより良くしようとする心の育成	A		
改善の方策) ・生徒支援と教育相談が一体となった学校づくりを目指し、組織的に推進していく。 ・これまで以上に、学校・家庭・地域・関係機関等との連携・協働を推進していく。 ・生徒が学びたいと思ったときに学べる環境の整備を推進していく。			

健やかな体の育成 「健康で安全な生活環境の具現化」

・各種体育行事を節目に一層の体力の向上・増進 ・運動部活動の一層の充実と推進	・食に関する教育計画の充実とその推進 ・現行部活動の充実と支える体制の堅持	A	A	A
改善の方策) 保健体育科の授業以外で、生徒の運動機会を創出する工夫として、地域と協力しながら、三間（仲間、時間、空間）の視点を大切に検討していく。				

信頼される学校の創造 「保護者・地域に信頼され、支持される学校の具現化」

○中央中の校風・伝統の継承と発展 ・先輩から後輩へ、思いやりのバトンパスを大切にした校風 ・伝統の継承と発展	A	A	A
○家庭、地域と連携する教育の推進 ・積極的な広報活動と、学校ホームページの充実 ・地域、関係機関との連携＆相互交流の促進 ・学校評価の推進と改善	A		
改善の方策) ・中央中学校の不易流行を教師、生徒、保護者とともに確認し、伝統の継承を推進する。 ・学校運営協議会設置に向けて中央小学校及び地域の方々と連携を図りながら整備していく。			

札幌らしい特色ある学校教育

○雪	A	A	A
○環境	A		
○読書	B		
改善の方策)			

・雪に関しては、今年度気候の関係で中止した「雪像づくり」のカリキュラム完成を目指し取り組みを強化する。
・環境に関しては、総合的な学習の時間や各教科の時間の中で「SDGs」に関連した実践を検討していく。
・読書に関しては、読書に関する生徒の実態と意識を再調査する。その後以下の取り組みを検討する。
学校司書との更なる連携（おすすめの本の紹介&読書週間の実施、外部機関との連携等）
各教科や学年とのタイアップも視野に入れて取り組みを検討していく。

【子どもへの発達の支援】

特別な配慮を必要とする子どもへの教育

<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの支援委員会」を中心として、不登校生徒のストレス・悩みを和らげ、通常の学校生活に戻る方策の展開、さらに、特別な支援を必要とする生徒への全職員での支援 ・スクールカウンセラー、学びのサポーターや特別支援教育コーディネーターと連携を図りながら、幅広い生徒理解と組織的な対応のシステムづくり ・特別支援学級と通常学級との学校行事や学年行事での交流（インクルーシブ教育の視点から） 	A	A	A
改善の方策） <p>特別支援教育コーディネーター&学びの支援コーディネーターを中心としながら、SC、SSW、養護教諭、学びのサポーター、外部機関との連携を十分に図り、システムを確立し、組織的に対応していく。</p>			

【教科等の枠組を越えた教育】

人間尊重の教育

<ul style="list-style-type: none"> ・校訓「吾あり 人あり 学びあり」の精神の徹底による全校生徒および全職員による「信頼と敬愛に満ちた学校生活」の具現化 ・道徳や特活の授業を中心に、性や命に関する教育の推進の一環として、外部講師を招き、学年集会の実施による性や命に関する正しい態度の形成 	A	A	A
改善の方策） <p>道徳教育の推進はもとより、外部講師を招き講演や講話を実施していく。また、教師が道徳の授業に係る研鑽を積み、豊かな心を育てる道徳の授業の推進を目指す。</p>			

国際理解教育

<ul style="list-style-type: none"> ・異文化に対する関心や理解を深め、尊重する態度の育成に努め、教科や総合、道徳、有志によるユニセフ募金活動などを中心とした工夫と外部講師による啓発 ・ALTの活用を図り、より多くの理解と交流の場の設定と工夫 	A	A	A
改善の方策） <p>英語科、社会科等の教科の時間を利用し、異文化に対する関心や理解を深めるとともに、総合的な学習の時間の中で、「国際都市として札幌が発展するため」に生徒自らが課題を設定し、探究的な学びができるようなカリキュラムを再考していく。</p>			

情報ICT教育

<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事のなかでの視聴覚機器の活用 ・機器の管理と整備の徹底による、できるだけ使用しやすい環境づくり ・質の高い情報の提供に努めるとともに、情報リテラシーの育成 ・情報モラルの育成 	A	A	A
<p>改善の方策)</p> <p>次年度以降も、リーディングDXスクール事業を継続申請し、推進していく。また、「生成AIパイロット校」にも申請を予定している。生徒も教師も能力が拡張できるようなICTの活用を目指す。校務に係るDXも積極的に推進していく。</p>			

<p>(学校関係者評価委員による御意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校が多くなってきている要因や、改善策、笑顔で学校生活を送っている生徒が前期と比べると減っている理由など様々な原因を探ると本質が見えてくるかもしれませんね。 ・生成AIパイロット校に申請することに関してたいへん興味があります。次年度の報告を楽しみにしています。 ・時代の流れに合わせて先生方の様々な取組に感心と感謝しています。くれぐれも御無理をなさらず御自身の時間も大切にしてください。 ・「子どもの声を聴く会」を開催するなど、コミュニティ・スクール導入に向けて確かな準備を進めている。授業参観には多数の保護者の方が参加され、関心の高さを感じる。これからも学校・家庭・地域が一体となって子どもの成長を支える体制づくりを進めてほしい。 ・市教委幹部の方々や道内外の教育関係者はじめ多くの視察を受け入れていた。中央中の先進的な教育実践が評価されてのことだと思う。 ・「借りるっぴ(物品貸出管理システム)」を独自に構築するなど、先生方が業務の工夫・改善に創造的に取り組んでいる。それは教員の働き方改革及び子どもたちの学びの環境整備につながっていると思う。 ・ICTの「端末を使うことで、勉強がおもしろい、楽しいと思うときがある」に関する数値が下がっていることについて、悲観的に捉えるのではなく、生徒の中でICTの活用が文房具となっている、つまり、使うことが当たり前の存在になっているのであれば、あえて「楽しい」と回答はしなくなるのではないか。むしろ、肯定的に捉えることも可能ではないか。アンケートも多面的・多角的に分析することも必要では。
